

12課

9月20日

「あなたの栄光を お示してください」



安息日午後 9月13日

暗唱聖句

主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者」。(出エジプト記 34 : 6、7、口語訳)

主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者」。(出エジプト記 34 : 6、7、新共同訳)

今週の聖句

出エジプト記 33 : 7～34 : 35、申命記 18 : 15、18、ヨハネ 17 : 3、ローマ 2 : 4、ヨハネ 3 : 16、IIコリント 3 : 18

今週のテーマ

私たちは皆、神との歩みの中で成長する必要があります。成長がなければ、私たちは死んでいます。使徒ペトロは、「わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい」(Ⅱペト3:18)と明言しています。毎日、私たちは神の大学におり、そこには卒業がなく、継続的な学習過程があります。各成長段階において、もし神があなたを、神の求めておられる人間にキリストにあって形づくられるなら、あなたは完全になることができます。

小学1年生が読み方と100までの数え方を学べば、その成長段階では知識が完全(十分)であるため、合格点をもらえます。しかし、もし高校生にこれと同じレベルの知識しかないことがわかったなら、それは、この学生の教育に大きな欠陥がある証拠でしょう。このことは、神の恵みと知識における私たちの成長に似ています。私たちは発達各段階で完全になることができるのです。

今週私たちは、モーセが神の命令を知り、それに従うことによって、主との歩みの中でいかに成長していったのかを研究します。

問1 出エジプト記 33：7～11 を読んでください。なぜ神はモーセに、臨在の幕屋を建てるように命じられたのでしょうか。

（イスラエルの宿営の外に建てられた）「臨在の幕屋」と、のちに宿営の中心に建設された幕屋を混同してはなりません。モーセが臨在の幕屋の中でどれほど頻繁に神と相談したのかはわかりませんが、一つだけ確実にわかることは、モーセが神と会うことによって、互いの間に親密な友情が生まれたということです。「主は人がその友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた」（出33：11）。友とは、相談し、ほとんどすべてのことを率直に話し合え、その人が決してほかの人にそれを漏らさないと信頼できる人です。友は、持つべき最もすばらしいものの一つであり、なるべき最もすばらしい人の一つです。

出エジプト記 19章～34章に記録されているモーセの物語は、神が私たちの人生をいかに変えてくださるかについて、多くの教訓を含んでいます。神は、この優れた指導者とどのように関係を築かれたのでしょうか。モーセの生涯を研究すると、彼が神の力についてだけでなく、神の愛とご品性についての知識をいかに深めていったのかがわかります。これは神との関係を築くうえで重要な要素です。

シナイ山に到着する前、モーセは特別な指導者の役割を果たす準備をしている間でさえも、神によって大いに用いられました。ミディアン^{ミディアン}の地で羊の世話をしていたとき、彼は神から靈感を与えられ、「ヨブ記」と「創世記」の2書を書きました。そして、燃える柴という劇的な出来事の中で、彼はイスラエルをエジプトから導くよう、神に召されました。モーセは葦^{アシ}の海で、エジプトの神々と強大なエジプト軍が敗北するのを目にし、何週間もの間、神がいかにしてイスラエルをエジプトからシナイまで導かれるのかを観察しました。自分の顔が光を放つような経験をしたのち、彼はさらに39年間、イスラエルを約束の地のすぐ手前まで導いたのです。聖書のメッセージによれば、モーセは神の忠実な僕であり（申34：5、ヨシュ1：1）、闇の中の弱ることなき光であり、ほかの人が比較される模範的な預言者でした（申18：15、18）。彼は変化のきっかけをもたらしましたが、人々は必ずしも彼の指示や言葉に従ったわけではありません。しかし、従ったときに、人々は繁栄したのです。

モーセの類まれな人生の物語は、私たちが神に変えていただくとき、神が何をなさるかを教えています。神との歩みの中で、神があなたの人生に力強く働かれたことを認識した転機は、どんなときでしたか。

問2 出エジプト記 33：12～17 を読んでください。モーセは主に、何を教
えてほしいと頼みましたか。なぜ彼は、人々を導くために神の臨在を
求めたのでしょうか。

モーセは、主にあって着実に成長しました。彼はますます主に近づき、神の御姿に倣おうと努めました。ある日、臨在（会見）の幕屋で神と会話していたとき、モーセは突然、自分が神を知らないことに気づき、具体的な祈りを口にしました。「あなたの道をお示してください。あなたを知ることができるように」（出33：13、英訳）。モーセは、神を新たなレベルで理解する必要性を深く認識したのです。彼は、主を知れば知るほど、自分が主を知らないことに気づきました。彼は自分の必要性を認め、主のことをもっと知りたいと心から願ったのです。神はモーセの願いを喜んで聞き入れてくださいました。

これまでのモーセの経験を見ると、彼がいかにして主とのより深く親密な関係に引き入れられ、霊的に成長したのかを観察することができます。

まず、モーセは、「神のもとに登（り）」（出19：3）、それから「山の頂に」行き（同19：20）、その後、神のおられる「密雲」（同20：21）に近づきました。

別の機会に、「モーセは〔神のおられる〕雲の中に入って行き」（出24：18）、40日40夜、主とともに過ごしました。この40日の間に、神は二つの貴重な賜物をモーセに与えられました。(1) 神ご自身が切られた2枚の石の板に自ら記された十戒という賜物（同24：12）と、(2) 幕屋の建て方や祭具の作り方に関する指示（同25章～31章参照）です。

その後、さらに40日40夜、彼は主とともに過ごし、罪人たちのために執り成しました（出32：30～32、申9：18）。

しかし、こういったことのあとでも、モーセは神のご品性をもっと具体的に知りたいと願い、神はすぐに、ご自分が何者であられるかを理解するための特別な洞察を彼にお与えになりました。モーセが望んでいたこの知識は、神についての単なる知的な理解ではなく、神ご自身との経験的な認識でした。

何世紀もあとに、イエスがこう言われたのも不思議ではありません。「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」（ヨハ17：3）。神がご自身を人間に知らせるために、自ら人間になること以上に良い方法があるでしょうか。

神を知ることと、ただ神について知っていることの決定的な違いは何ですか。

金の子牛の背教のあと、モーセは神の民のために執り成し、主が彼らを約束の地へ導き続けてくださることを確信したいと思いました。また、心の底から、主をもっと知りたいとも思いました。

問3 出エジプト記 33：18～23 を読んでください。神は、神の栄光を見たいと言うモーセの願いに、いかに答えられましたか。

「どうか、あなたの栄光をお示ください」と、モーセは主に願い、主は憐れみをもって彼に栄光をあらわされました。しかし、モーセの求めに応えるとき、神はご自分の「善い賜物」を示すと約束されました。ですから、神の栄光とは、神の善い賜物、つまり神のご品性であると結論づけて差し支えないでしょう。（『希望への光』1576ページ、『患難から栄光へ』第56章、『希望への光』1350ページ、『キリストの実物教訓』第29章、『希望への光』507ページ『国と指導者』第26章参照）。

「神の徳をその子らにお与えになることは、神の栄光である。神は人々が最高の標準に達するのをご覧になりたいと望んでおられる」（『希望への光』1558ページ、『患難から栄光へ』第52章）。神の栄光とは、悔い改めた罪人たちを受け入れ（『希望への光』633ページ、『国と指導者』第56章参照）、彼らを変えるために必要なものをすべて与えることです。同時に、私たちの「栄光」とは、私たち自身の生活の中で主のご品性を明らかにし、それをほかの人たちに知らせることです。

神のご品性、神の善良さ、優しさ、慈愛の反映が、私たちの行動の中に見られなければなりません。このようにして、私たちはこの世に祝福をもたらすだけでなく、見守る宇宙に向けて光を輝かせる機会を得ることができます。パウロは、「考えてみると、神はわたしたち使徒を、まるで死刑囚のように最後に引き出される者となさいました。わたしたちは世界中に、天使にも人にも、見せ物となったからです」（Ⅰコリ4：9）と述べています。この宇宙的視野は、私たちの生活と奉仕に、ほとんど想像もできないような意味と目的を与えます。

ローマ2：4でパウロは、「神の憐れみがあなたを悔い改めに導く」と述べています。つまり、人々に自らの罪深さと救いの必要性を納得させるのは、聖霊によって示された神の善良さ（憐れみ）とご品性なのです。実際、十字架を見て、誰（主ご自身）が、なぜ、そこにおられたのか（主が私たちを愛しておられ、それが唯一の救済方法であったこと）を知るとき、私たちは、主の善良さとご品性について最大限の啓示を得るのです。

問4 出エジプト記34：1～28を読んでもください。神はモーセに、いかにして栄光をあらわされましたか。

モーセは、彼が最初に砕いた石の板と同じような2枚の石の板を持って行かねばなりません(出32：19)。彼がシナイ山で主に会うのは、これで7回目です。これまでのモーセの登山については、次の聖句で言及されています。(1) 出エジプト記19：3、7、(2) 同19：8、14、(3) 同19：20、25、(4) 同20：21、24：3、(5) 同24：9、12～18、32：15、(6) 同32：30、31。モーセは朝早くから登り始めました。

今やモーセは、神のご品性に関するこの輝かしい洞察を耳にする準備ができていました。神のご品性のすばらしさが、この驚くべき神の自己啓示の中に最もよく説明されています。それは、神がどんなお方であられるかを説明する最も重要な記述であり、聖書全体に織り込まれている金の糸です(民14：18、ネへ9：17、詩編103：8、ヨエ2：13、ヨナ4：2)。ここでの主の宣言は、旧約聖書のヨハネ3：16です。聖書記者たちは重要な箇所、生ける神のこの自己宣言を適用し、繰り返し、発展させています。なぜなら、神のご品性は正しく理解されなければならないからです。

モーセは、神の御名について、前代未聞で前例のない説明を受けたとき、ひれ伏して主を礼拝しました。私たちもまた、神の愛、恵み、憐れみ、慈しみ、善意、誠実、^{ゆづ}赦し、^{よき}聖さ、正義を垣間見るとき、神に引かれます。私たちが神を愛するようになるのは、神の並外れた特質を見て賞賛するときであり、その愛は、神に仕え、従いたいという願いにつながります。神が私たちを愛しておられるからこそ、私たちも神を愛し返すのです(1ヨハ4：19)。

この自己啓示の中で、神はモーセに、ご自分の民のために驚くべき業を行い、彼らを約束の地に導くことを保証されました。神は彼らとの契約を更新し、ほかの民も彼の威厳と恐るべき働きを目にするだろうと約束されました。「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしはあなたの民すべての前で驚くべき業を行う。それは全地のいかなる民にもいまだかつてなされたことのない業である。あなたと共にいるこの民は皆、主の業を見るであろう。わたしがあなたと共にあつて行うことは恐るべきものである」(出34：10)。

しかし、イスラエルの人々が繁栄を手に入れるためには、神の言葉に従い、明確な10の規定に従う必要がありました。そこでモーセは、すでに破られてしまったその契約の内容を書き記しなさいと、神から求められました(出34：27、28)。

問5 出エジプト記34:29～35を読んでください。モーセの顔が光を放っていたのは、なぜでしょうか。

神がモーセに愛のご品性を明らかにされたあと、イスラエルの宿営に下って行ったモーセの顔は光を放っていました。彼は最初、そのことに気づいていたのでしょうか。いいえ、まったく知りませんでした。主に近づけば近づくほど、人は神の聖さに比べて自分の不完全さをより強く認識します。

モーセの顔が光を放つようになった原因は、何だったのでしょうか。その理由は、彼が神の御前にいたという単純な事実ではありません。なぜなら、彼はこれまでも何度か主と一緒にいましたが、その出会いのあとに彼の顔が光を放つことはなかったからです。しかし、もし彼が主の御前にいたことがなければ、彼の顔は決して輝いたりしなかったでしょう。モーセが神の善良さと優しさを理解し、神のご品性のすばらしさのゆえに完全に心を開いたとき、初めて彼は変えられ、その顔が光を放ったのです。私たちが神に身を委ね、神に私たちの人生の主、王になっていただくとき、私たちの心と思想は、変化を経験することができます。

問6 IIコリント3:18を読んでください。イエスはいかにして、あなたを徐々にご自分の姿に変えることができますか。

パウロは、光を放つモーセの顔とイエス・キリストを比較し、(神の律法と恵みが具現化された)イエスの栄光は、モーセとともに律法の栄光を上回ると述べています。キリストは、その律法とともに、私たちがイエスに目を注ぐときのみ(ヘブライ3:1、12:2)、神の霊の力によって私たちの品性に刻み込まれるのです(IIコリ3:12～18)。

モーセは私たちの模範であり、私たちが神に私たちの品性を変えていただき、神の聖なる姿に私たちを形づくっていただくときに、どんなことが神によって私たちに起こりうるのかを示しています。パウロが「新しい命」(ロマ6:4)に生きるということについて語るとき、これが彼の意味していることです。

神のご品性を最も反映する必要があるのは、あなたの品性のどの部分ですか。十字架に焦点を当てることで、どんな励ましと救いの確信が得られますか。

参考資料として、『人類のあけぼの』第28章「シナイでの偶像礼拝」の後半部分を読んでください。

ある曇りの日、ある父と息子が大聖堂を訪れました。聖書のさまざまな場面が美しく描かれたステンドグラスの窓を眺めていると、突然、太陽の光がガラスに描かれた人物たちの絵を通して差し込んできて、印象的な光でその人物たちを明るく照らし出しました。小さな男の子は父親に、「パパ、この人たちは誰なの」と尋ねました。父親は、キリスト教のことも、キリストや彼の弟子たちのことも、あまり知りませんでしたが、「この人たちはクリスチャンなんだよ」とすぐに答えました。このまばゆいばかりのガラスの絵は、息子的心里に残りました。ある日、少年の担任の先生が授業中に尋ねました。「みんな、クリスチャンって、どんな人たちか知っていますか」。この少年は、あの大聖堂の明るい絵を思い出して、「知っています。クリスチャンっていうのは、輝いている人たちです」と答えました。同じように、イエスは弟子たちにこう言われました。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」(マタ5:16)。輝いている人だけが、変化の担い手になれるのです。

話し合いのための質問

- ① 「もし私たちが神の前にへりくだり、親切で礼儀正しく、心優しく憐れみ深くなるなら、今はたった1人しか真理への回心者がいない場所に、100人の回心者が生まれるだろう」(『教会への証』第9巻189ページ、英文)。私たちの品性、行動、態度が私たちの証しに、いかに影響を与えるかということについて、ここには私たち全員に向けての、どんな説得力のあるメッセージがありますか。
- ② 出エジプト記34:6、7は、適切にも旧約聖書のヨハネ3:16と呼ばれていません。なぜでしょうか。
- ③ 出エジプト記34:6、7にある神の自己啓示に基づいて、あなたの信じる神はどんな方なのかと尋ねる人々に、神のご品性のすばらしさをどのように説明できるでしょうか。
- ④ 安息日学校のクラスで、キリストへの信仰を公言する人々の品性や行動が彼らの生き方にどう影響を与えるかについて、話し合ってください。つまり、親切で、礼儀正しく、謙虚で、寛容だった人々は、あなた自身の経験にどんな影響を与えましたか。また、不親切で、無慈悲で、傲慢な「クリスチャン」は、主とのあなたの歩みに、どんな影響を与えましたか。